

英語絵本読み聞かせのための教室英語表現集の提案

— 実践検証と表現集の改善 —

Proposing a Classroom English Textbook Specialized for Picturebook Storytelling

— Verifying and Improving Its Utility —

早川 知江 HAYAKAWA Chie

(教育学部)

0. はじめに

本稿は、小学校英語教育で英語絵本を効果的に活用しようとする研究の一環である。2020年度から5、6年生の「外国語」科が教科として必修化されるなど、小学校での英語教育はますます重要性を増している。同時に、英語教育における絵本も、その存在感を増している。

こうした背景の中、早川(2022)は、特に絵本読み聞かせ活動に焦点を当て、小学校教師が教室で用いることのできる英語表現を集めた教室英語表現集をつくることを試みた。この表現集は以下の3つの特徴をもつ：

- ・絵本読み聞かせに特化した表現がまとまっている
- ・教師が英語が苦手であっても、自信をもって用いることのできる平易な表現を厳選している
- ・児童から見ても、語彙的・文法的に難しすぎない表現を用いている

しかし、実際に大学の小学校教員免許養成課程(以下「小免課程」)科目で、受講生にこの表現集を用いて絵本模擬読み聞かせを行なってもらったところ、以下の問題点があることが明らかになった：

- ・「平易な」はずの表現であっても、教師役の受講生が正確に使いこなせない場合がある
- ・「平易な」はずの表現であっても、児童役の受講生が意味を理解できない場合がある
- ・児童役の受講生が英語表現の意味を理解できないと、教師役は咄嗟に日本語で言い直してしまう

こうした問題を解決するには、教室英語表現集に載せる表現を「さらに平易な」ものに書き換えるよりも、児童が理解でなかった場合に「より平易な表現に言い換える」技術の方が重要であると考えられる。本稿は、この「言い換え」のために、CDS(Child-Directed Speech；大人や年長者が子どもに語りかける話し方)の理論を応用し、英語表現を児童の側から見て理解しやすく、反応しやすいものに変えていく具体的方策を示す。そして、早川(2022)で提案した表現集を書き換えるのではなく、「より平易な言い換え」表現を併記することで、より児童に伝わりやすく、使いやすい表現集へ改良することを目指す。

1. 早川 (2022) の概要と問題の所在

1.1 早川 (2022) の概要

現行の小学校学習指導要領 (平成29年告示) 解説に「外国語活動を実施する際に、児童に活発なコミュニケーションの場を与えたり […] するためには、指導者に、ある程度、英語をはじめとする外国語を聞いたり話したりするスキルや、様々な国や地域の文化についての知識や理解が求められる (p. 48)」とあるように、小学校での英語教育は、英語で行うことが義務ではないが推奨されている。英語絵本読み聞かせ活動でも、教師が英語でコメントや問いを発せられることが望ましく、また、教師が自分でコメント訓練ができるような教室英語表現集の存在が求められる。

小学校での英語教育が義務化されるのに伴い、小学校教師のための教室英語表現集は、既に多数、さまざまな形で公開・出版されている。現状、小学校教師や小学校教師を目指す小免課程学生が手に入れられる教室英語表現集としては、主に以下の3つの形態がある：

- ・大学の小免課程での使用を想定した教科書やその付録
- ・県教育委員会や教育センターが提供するウェブサイト
- ・市販の小学校教室英語表現集

しかし、これらの表現集は、①絵本読み聞かせに特化したものではない、②語彙・文法レベルが、教師が使いこなすにも、また児童が聞き取るにも適さない高レベルなものが多い、という2点の課題を持つ。早川 (2022) は、この2つの課題から出発して、より使いやすい表現集を作成することを目指した。まず①の課題とは、既存の教室英語表現集には共通して以下の特徴があるということである：

- ・さまざまな「見出し」の下に、そこで使える英語表現をリストアップしている
 - ・見出しは、教室で想定される「場面」(例：授業の始まり、終わり)、または「機能」(例：褒める、指示する、注意する)を示し、これらの見出しが混在している場合もある
 - ・「場面」として「絵本読み聞かせ」を設定した表現集は (現在探した限りでは) ない
- そのため、読み聞かせで使用する表現があちこちに散在するという問題がある。例えば、読み聞かせを始める Is everybody ready? は、「授業の始まり」の見出し下に記載され、挿絵中のものの名前を英語で尋ねる What do you say it in English? は、「前時の復習」の見出し下に記載される、などのように。そのため、使用者は、読み聞かせに使える英語表現をあちこちから探さなくてはならない。

続いて②の課題とは、市販の教室英語表現集で用いられている英語は、語彙的にも文法的にも小学校英語のレベルを超えており、教師が暗記するのに苦勞するだけでなく、実際に用いたとしても児童に通じない可能性が高いという問題である。現行の小学校学習指導要領によれば、具体的な語彙数として、「2 内容 [第5学年及び第6学年] ウ 語、連語及び慣用表現」の項に、小学校3-6年生の間に扱うべき語彙は「第3学年及び第4学年に

において第4章外国語活動を履修する際に取り扱った語を含む600～700語程度」としている。しかし、どのような語彙をこの600-700語として定めるかは現時点でははっきりと示されておらず、教科書作成者や指導者に任されているのが現状である。そこで早川（2022）では、「外国語」が教科化されるのに伴い、民間の教科書会社が検定済教科書を用意するまでの「暫定教科書」として文科省が作成した、小学校5-6年生向け教科書 *We Can!* 1, 2 に載っている単語をリストとして示し、これらが「小学生が知っている」と想定される単語リスト」と想定した。

次に、文法事項の中でも、特に文の複雑さに関連する「文型」について見てみる。同じく小学校学習指導要領（2 内容〔第5学年及び第6学年〕エ 文及び文構造）によれば、小学校のうちに学ぶべき文型は以下の3通りであるという：

- a [主語 + 動詞]
 b [主語 + 動詞 + 補語] のうち、
- | | | |
|--------------|---|------------------|
| 主語 + be 動詞 + | { | 名詞
代名詞
形容詞 |
|--------------|---|------------------|
- c [主語 + 動詞 + 目的語] のうち、
- | | | |
|-----------|---|-----------|
| 主語 + 動詞 + | { | 名詞
代名詞 |
|-----------|---|-----------|

これは、いわゆる「5文型」の考え方では、第1文型（SV）、第2文型（SVC）、第3文型（SVO）の3種のみであり、しかも第2文型の動詞（V）はbe動詞のみということである。同じ第2文型でも、You look happy.（あなたは幸せに見える）、It got dark.（暗くなった）など、look, get, seem, smellなどの一般動詞を述語とする文は範疇外ということになる。

上記の前提に基づき、早川（2022）では、以下の方針で市販の表現集を改善し、新しい表現集を作成することを提案した：

- (1) 市販の小学校教室英語表現集3冊の中から、絵本読み聞かせ時に教員が児童にコメントしたり質問したりするのに使用できる表現を抜き出す
- (2) その中から、「小学校英語教育に適切な語彙・文法的レベル」を超えている表現を抜き出す
- (3) それらの高度な表現を、「小学校英語教育に適切な語彙・文法レベル」に沿って書き換える

この(3)の手順について一例を挙げると、「これからお話を読んであげますね：I'm now going to read you a story.」という表現は、以下の点で「小学校英語教育に適切な語彙・文法レベル」を超えている。つまり、文型が「read 人 モノ」をとる第4文型であり、be

going to（これから～するつもりです）の熟語も小学校の学習範囲を超えている。そのため、ほぼ同じ意味と機能を持つ、It's a story time!（お話の時間ですよ）などの第2文型に書き換えるということである。

こうした方針でできあがった、絵本読み聞かせ活動に特化した「平易な」教室英語表現集は、表1の通りである。早川（2022）に同一の表が表2として載っているが、以下第3節で、CDSの理論に基づき「より平易な言い換え」表現を併記する際の参照のため、本稿にも全体を再掲した。

表1：絵本読み聞かせ時に用いることのできる平易な教室英語（小学校の学習レベルに適合）

	日本語	英語	使用できる場面
読み聞かせを始める			
1.	これからお話を読んであげますね	It's a story time!	読み聞かせを予告する
2.	お話が始まるまで、静かに待っててね	Wait quietly for now, okay?	読み聞かせまで静かに待たせる
3.	私の周りに集まってね	Please come around me.	絵本の周りに集まらせる
4.	床に座ろうね	Sit on the floor now.	床に座らせる
5.	少し前進してくれますか	Move closer.	座る位置を調整する
6.	少し詰めて（移動して）	Move over.	座る位置を調整する
7.	本が見える？	Can you see the book?	本が見えるか確認する
8.	今日は何を読むのかな？	What are we going to read today?	絵本を紹介する
9.	前にこの本を読んだことがある人？	Do you know this story?	絵本を紹介する
10.	これ、知ってる人？	Know this? Anyone?	読もうとする絵本やキャラクターを知っているか確認する
11.	よく聞いてください	Are you listening?	読み聞かせに集中させる
12.	静かにしてくれますか？	Can you be quiet, please? / Don't talk.	同上
13.	お行儀よくしてね	Please behave yourself.	同上
読み聞かせ中のコメント・問いかけ			
14.	この絵を見てください	Look at this picture.	絵に注目させる
15.	犬は何色ですか	What color is the dog?	絵の中のものの色を答えさせる
16.	この箱に何が入っているかな？	What's in this box?	絵の中のものを予想させる
17.	なんだと思う？	Guess what?	何か予想させる
18.	これが何かわかる人？	What is this? Anyone?	（一部隠れた）ものが何か答えさせる
19.	この絵の中に何が見える？	What do you see in this picture?	絵の中に描かれたものを尋ねる
20.	この単語を覚えていますか？	Do you remember this word?	絵本に出てくる単語を知っているか確認する

21.	Elephantってどういう意味？	What does "elephant" mean?	絵本に出てくる単語を知っているか確認する（意味）
22.	このことばはどう発音しますか？	Can you read this word?	絵本に出てくる単語を知っているか確認する（発音）
23.	「ゾウ」は英語で何？	What's "zou" in English?	児童の日本語のコメントや回答を英語にする
24.	新しい単語を覚えましょう	Let's learn new words.	出てきた単語を練習する（意味）
25.	「モンキー」はどう綴るの？	How do you spell "monkey"?	出てきた単語を練習する（綴り）
26.	私のあとについて言ってみて	Repeat after me.	出てきた単語を練習する（発音）
27.	一緒に言いましょう	Let's say it together.	出てきた単語を練習する（発音）
28.	大文字のBを指してくださいか？	Where is capital B?	絵本の本文で文字の練習をする
29.	クリスマスまで、あと何日？	When's Christmas?	絵本の内容に関連する質問
30.	1週間のうちで、何曜日が一番好き？	What day of the week do you like best?	同上
31.	パイナップルが好きな人、手を挙げて	Who likes pineapples? Raise your hand.	同上
32.	ネコは好き？	Do you like cats?	同上
33.	どんな動物が好き？	What animals do you like?	同上
34.	これ、知ってる？	Do you know this?	同上
35.	次は何が起こるかな？	What happens next?	続きを想像させる
36.	サオリちゃんは想像力があるね	I like Saori's ideas!	絵本の続きを想像させた時などのフィードバック
37.	そう考えているのね？	Is that what you're thinking?	同上
38.	青いバッグを見つけてね	Find a blue bag.	絵の中のものを探させる
39.	羊を数えましょう。1, 2, 3…	Let's count the sheep. One, two, three...	絵の中のものを数えさせる
40.	これできる？	Can you do this?	登場人物の真似をさせる、手遊びなどを教える
41.	私と同じようにしてみてください	Can you follow me?	同上
42.	私とそっくりにやってみて	Can you do exactly like me? Copy what I do, okay?	同上
43.	おサルさんみたいに動けるかな？	Now, you're a monkey!	登場人物の真似をさせる
44.	30秒でやってみて	You have thirty seconds.	絵探しなどの課題に時間制限を設ける
45.	急ぐ必要はありませんよ	There's no need to rush.	課題にゆっくり取り組ませる
46.	もう一度、やってみますか？	Do you want to try it again?	質問やゲームを繰り返す
47.	先生の説明、わかるかな？	Do you understand?	解説が理解できたか確認する
48.	答えが合っているか見てみよう	Are you sure? Let's check.	児童の予測が合っているか（ページをめくって）確認する
49.	面白いね！	How interesting!	感想を言う（興味深い）
50.	おもしろいね！	Funny story!	感想を言う（おもしろい）

51.	それは危険ですね!	That can be dangerous!	感想を言う (危険)
52.	ケガをしたら大変!	He will get hurt! Oh, no!	感想を言う (心配)
53.	私、とても怖い!	I'm so scared!	感想を言う (怖い)
読み聞かせを終える			
54.	このお話は、これでおしまい	This is the end of the story.	読み聞かせを終える
55.	絵本、楽しかった?	Did you enjoy the story?	絵本の感想を尋ねる
56.	まったく馬鹿げた話ね!	That's a crazy story!	絵本の感想を共有する
57.	でも本当の話よ	But it's true!	同上
58.	馬は何色だった?	What color was the horse?	内容を確認する (色)
59.	馬は何頭いた?	How many horses were there?	内容を確認する (数)
60.	動物園にいたのは誰?	Who were the people in the zoo?	内容を確認する (登場人物)
61.	ロンはなんて言った?	What did Ron say?	内容を確認する (セリフ)
62.	もう一度、読んであげようか?	Read one more time?	読み返してほしいか確認する
63.	これを元の場所に戻してくれる?	Can you put this back?	本を児童に片付けてもらう

早川 (2022) は、表 1 に示した表現集作成により、以下の 2 つの目標を達成したと考える：

- (1) 英語が苦手な教師でも使用しやすい表現集とは何か例示し、今後表現集を拡充する際のモデルを提示した
- (2) 絵本読み聞かせ活動に特化した表現集を示すことで、教師が少なくともその活動は自信をもって行える一助となった

1.2 問題の所在：表現の更なる簡易化の必要性

前節に見た、絵本読み聞かせに特化した教室英語表現集 (以下、「表現集」) を用いて、実際に小免課程学生に英語絵本の模擬読み聞かせ活動をしてもらった。具体的な方法は以下の通りである：

- ・参加者：2022年度前期「外国語科指導法 (英語)」受講生 36 名
- ・表現集：プリントアウトして全員に配布し、読み聞かせに先立ち一通り発音練習
- ・グループ：受講生を 6 人×6 グループに分け、各グループ 1 名が教師役、残り 5 名が児童役
- ・使用絵本：Eric Carl 絵・文 *The Very Hungry Caterpillar*
- ・指示：

教師役は、なるべくたくさん英語の声かけや問いかけを挟みながら、絵本を読み聞かせること。必要なら表現集を見ても良いが、英語表現はできる限り前もって暗記しておくこと。

児童役は、教師の問いかけに対してなるべく返答することとし、可能なら英語で返答

すること。

こうした条件・指示のもと読み聞かせを行った結果、「教師にも児童にも優しい」ことを想定した表現集であったが、以下の問題点があることが明らかになった：

- (1) 「平易な」はずの表現であっても、教師役の受講生（以下「教師」）が正確に使いこなせない場合がある
 - (2) 「平易な」はずの表現であっても、児童役の受講生（以下「児童」）が意味を理解できない場合がある
 - (3) 児童が英語表現の意味を理解できないと、教師は咄嗟に日本語で言い直してしまう
- (1)の問題について詳しく述べる。「正確に使いこなせない」というのは、実際には、以下の①および②のような場合である。

- ① 英語表現が思い出せず、日本語の問いかけになってしまう。例えば以下のような場合である（スクリプト中の「T」は教師、「S」は児童を指す。以下同）：

T : Look at this. What... How much... いくつのイチゴがあるかな？

上記スクリプト中で、教師は、実際には How many strawberries (do you see または are there)? と尋ねたかったと考えられるが、その表現が思いつかずに「いくつのイチゴがあるかな？」と日本語になってしまった。

- ② 表現集に載っていた表現を、一部の単語や文法を間違えて使ってしまう：

T : Yes, strawberries! Like strawberry? Raise hand.

これは、表現集にあった Who likes pineapples? Raise your hand. (パイナップルが好きな人、手を上げて) を利用して、pineapples の部分を strawberries に置換えた発言と考えられるが、Who、like の三単現の s、strawberry の複数形の s、your が脱落してしまった例である。

(2)の児童が英語を理解できない問題については、①、②のような場合があった。

- ① 児童が、教師の発話の意味を取り違えて返答してしまう：

T : Many oranges. Can you see?

S : Five.

この場面で、教師は Can you see? ((オレンジが) 見える?) と問いかけているが、児童は Five. (5つ) と文脈に合わない返答をしている。これは、使用した絵本 *The Very Hungry Caterpillar* 中で、あおむしが食べる果物の数が毎日1つずつ増えていくため、今までずっと教師に数を尋ねられてきた児童は、異なる質問をされても勘違いして数字を答えてしまったものと考えられる。

- ② 児童が、教師の発話の意味が分からずに答えられない（または日本語で意図を聞き返してしまう）：

T : Look at the moon face [注：正しくは Look at the face of the moon] . How is he? ... she?

S : え、何。顔？ 顔がどうかってこと？

この場面で、教師は微笑んでいる月の挿絵を指し、How is he? ... she? ((月は) どんな気持ちかな?) と尋ねている。月の性別が分からずに、he と言った後に she と言いついてはいるが、英文としてはほぼ正しい。しかし児童は教師の質問の意図が分からずに、聞き取れた face と how という単語のみを繋ぎ合わせて「顔がどうかってこと？」と聞き返している。

(3)は、(2)に付随して起こる問題であるが、児童が英語表現の意味を理解できないと、教師は咄嗟に日本語で言い直してしまう事例が多くあった。例えば、上記に挙げた、Can you see? ((オレンジが) 見える?) という問いに対し、児童が Five. (5つ) と文脈に合わない返答をしてしまったやり取りの後、教師は以下のように日本語を用いて発話し、児童もその日本語の質問に日本語で応じている：

T : Many oranges. Can you see?

S : Five.

T : あ、まだ数じゃない。オレンジ見た？ ってこと。

S : 見た見た。

また、上記の月の気持ちを聞こうとしたやり取りにおいては、教師は自分の質問を日本語で言い直した上に、児童がすべき返答(「嬉しそう」)も自分で言ってしまうている：

T : Look at the moon face [注：正しくは Look at the face of the moon]. How is he? ... she?

S : え、何。顔？ 顔がどうかってこと？

T : えっと、そう。どんな顔に見えるか聞いたかった。なんか嬉しそうじゃね。

(1)の教師に付随する問題は、教師の側が教室英語を暗記したり練習する時間を長くするなどの方策で解決できるが、(2)のように、児童の側が理解できなかったときにどう対応するかについては、教室英語表現集そのものの改良をもって対応しなければならないだろう。というのは、教師が表現集に載っている英語表現しか使えないとすると、それが通じなければ、教師は日本語の言い換えに頼らざるを得なくなる。その結果、さまざまな弊害が生じる。例えば、児童に英語を聞かせる機会が減る、児童が「聞き返せば日本語にしてくれる」と思い英語を聞き取る意志が薄れる、英語によるやり取りの機会が日本語のやり取りに置き換わってしまい、児童が英語を話す機会が減る、などの問題である。

そのため本稿は、児童が教師の発話を理解できなかった場合に「より平易な表現に言い換える」技術を考えたい。本稿は、この「言い換え」のために、CDSの理論を応用し、英語表現を児童の側から見て理解しやすく、反応しやすいものに変えていく具体的方策を示す。そして、早川(2022)で提案した表現集を書き換えるのではなく、「より平易な言い換え」表現を併記することで、より児童に伝わりやすく、使いやすい表現集へと改良す

ることを目指す。

2. 改善の方針：CDS と初等英語教育

CDS は、大人や年長者が子どもに話しかけるときの話し方全般を指す用語である。人は、話し相手や場面に応じて、韻律、音韻、文法、語彙などを変化させて「話し方」を使い分けるが、乳児や子どもを相手にした場合も、特有の話し方が存在する。最初にこうした話し方を指摘したのはアメリカの言語学者 Charles Ferguson で、彼は、英語、アラビア語、ネイティブアメリカン、スリランカ、インド、シベリアツングースという6つの異なる言語圏を比較検討し、乳児や子どもを相手にすると話し方が変化するのとは世界共通の現象であるとして、その特有の話し方を育児語 (baby talk) と呼んだ (Ferguson 1964)。その後、同種の話し方に対して Newport, E. らは母親語 (motherese) などの用語を用いたが、現在では IDS (Infant-Directed Speech: 乳児を対象とした話し方)、または CDS (Child-Directed Speech: 子どもを対象とした話し方) という用語が広く用いられている。本稿では、対象を特に乳児 (infant) に限らず、広く「子ども向けのやさしい話し方」を想定することから、CDS の用語を採用する。

CDS は、以下のような言語的特徴をもつ (Ward 2004; 岩立、小椋 2017: 30; 伊藤 2018: 70) :

1. テンポ (= 速さ) がゆっくりしており、ピッチ (= 声の高さ) が高い
2. ピッチを大きく変化させたり、強制 (= 強く発音する部分) を誇張するなど、「大げさ」な韻律を用いる
3. 繰り返しが多い (少数の語や節を繰り返し言う)
4. 疑問文や命令文が多い (子どもにはたらきかける場面が多い)
5. 文法を簡素化する (発話の長さが短い。文と文を繋ぐ場合には、if や when などの従属接続詞を用いず、and, or などの等位接続詞のみを用いる)
6. 内容を「今、ここ」の具体的なことに制約する。抽象的な用語 (例: a gentleman) よりも具体的な固有名詞 (例: Mr. Brown) などを用いる
7. 文法構造を単純化する (例: How was the party? (パーティーはどうだった?) のような WH 疑問文に子どもが答えられないと、Did you enjoy the party? (パーティーは楽しかった?) のような、Yes/No で答えられる疑問文に切り替えるなど)

以上が CDS の一般的な特徴である。これらの特徴をもつ CDS は、子どもが 1) 大人の発話を聞き取りやすく、2) 理解しやすく、3) 返答しやすいなどの点から、子どもの言語発達を促すはたらきをされると言われている。

興味深いのは、こうした「子どもの言語発達を促す」CDS の特徴は、そのまま、子どもの外国語力向上を目指す語学教育の場にも当てはまるということである。Ferguson 自身も、語学教師は学習者に向かって、CDS (Ferguson の用語では baby talk) のような、

普通の会話よりもゆっくりとした単純な言語形式を使って話すように、と述べている (伊藤 2018: 70)。

それでは、上記のCDSの特徴を当てはめると、絵本読み聞かせ時に教師が用いる教室英語は、子どもに通じなかった場合、どのような方針で「さらにやさしく」言い換えることができるだろうか。特徴1-3から言えることは、教師はまず、自分の発話が理解されていないと感じたら、

- ・同じ表現でいいので、ゆっくり、はっきりと、一番聞き取ってほしい単語を強調しながら繰り返す

ことが重要だろう。

それでも通じなければ、特徴5に基づき、

- ・意味が通じる範囲で単語数を減らして発話し直す (+ジェスチャーで意味を補う) ことができる。例えば、Wait quietly for now, okay? (今は静かに待ちましょう、いい?) で通じなければ、Be quiet and wait. (静かに、待ってて) と言い換え、さらにはBe quiet の部分は唇に人差し指を当てるなど、ジェスチャーで意味を補う工夫も必要だろう。

また、発話によっては、意味が抽象的で通じないということもありうる。例えば Please behave yourself. (お行儀よくしてね) という表現は、behave yourself という熟語が難しいという側面もあるが、そもそも「お行儀よくする」というのがどういうことなのか、具体性に乏しいため理解できないという側面もあるだろう。その際は、特徴6に基づき、

- ・子どもの状態に合わせたより具体的な指示に置き換える

ことが重要だろう。例えば、子どもたちがザワザワしているなら、Behave yourself. よりも Be quiet. (静かにね) の方が具体的であるし、床に寝転がっているなら、Sit up straight! (ちゃんと座って) や、Sit like this. (こうやって座って) と教師が見本を見せる方法もあるだろう。

また、特徴7は問いかけ全般に用いることのできる重要な指摘で、

- ・WH 疑問文を Yes/No 疑問文に置き換える、あるいは返答の選択肢を示す

という方策によって、子どもはより答えやすくなる。具体例としては、What color is the dog? (犬は何色かな?) と聞いても子どもが答えられない場合を考えてみる。その場合、子どもは質問の意図が理解できない場合もあるし、あるいは、質問はわかっているのだが、答え方が分からない (例えば色を表す英単語が咄嗟に出てこない) 場合もある。その際、教師は Is it black? Is it white? (黒いかな? 白いかな?) と Yes/No 疑問文に置き換えて聞き直す。元々質問の意図が理解できていなかった場合、子どもは教師の black/white という単語から、聞かれているのは色のことだったと理解する。あるいは答え方が分からなかっただけの場合も、Yes/No 疑問文に置き換えられたことで、子どもは Yes か No のどちらかで答えることができるので、自分で色を表す単語を考えるよりも容易に答

えることができる。あるいは教師が用いた black/white という単語自体が「選択肢」として機能し、子どもはそこから「選んで」white と答えることもでき、子どもがゼロから返答を考えるよりもやさしく、答えやすいだろう。

3. 改善：「平易な」教室英語表現集を「さらに平易に」

前節で、「平易な」教室英語表現が通じなかった場合、「さらに平易に」言い直すための方策を4つ述べた：

1. 同じ表現でいいので、ゆっくり、はっきりと、一番聞き取ってほしい単語を強調しながら繰り返す
2. 意味が通じる範囲で単語数を減らして発話し直す（+ジェスチャーで意味を補う）
3. 子どもの状態に合わせたより具体的な指示に置き換える
4. WH 疑問文を Yes/No 疑問文に置き換える、あるいは返答の選択肢を示す

本節では、この方策に基づいて、実際の「絵本読み聞かせのための教室英語表現集」（表1）に、言い換え表現を付加していくことを試みる。重要なのは、元の表現を消してしまうのではなく、「まずはその表現で言ってみて、通じなければ言い直す」ための選択肢を加えることである。英語レベルは子どもによって異なるため、初めから易しい言い方しかしないのは、語学力向上のために不適切だからである。

以下、表2として、上記の方策による「言い直し」を併記した教室英語表現集を載せる。2-4.の番号は、どの方策に従って言い直したかを示している。1.は単に同じ言い方をゆっくり繰り返すだけなので省略した。2.の単語数を減らす方策はどのような場合にも使用でき、3.の「今ここ」に関わる具体的内容に言い換える方策は、「指示」に類する表現に使いやすい。4.の答えやすい疑問文に置き換える方策は、「問いかけ」に類する表現に多く使用した。また、単純な英語で意図を理解させるには、ジェスチャーの助けを借りることが重要である。表2中には、丸括弧内に英語表現と共に使用すると効果的と考えられるジェスチャー案を示した。

表2：絵本読み聞かせ時に用いる教室英語（子どもに通じなかった場合の言い直し方を併記）

	日本語	英語	言い直し 2. 単語数を減らす 3. 具体的な内容に 4. 答えやすい疑問文に (+ジェスチャー)
	読み聞かせを始める		
1.	これからお話を読んであげますね	It's a story time!	2. Story time, OK? (絵本を見せながら)
2.	お話が始まるまで、静かに待ってね	Wait quietly for now, okay?	3. Be quiet, and wait. (唇に人差し指を当てて)

3.	私の周りに集まってね	Please come around me.	3. Come here. (自分の周りを指差しながら)
4.	床に座ろうね	Sit on the floor now.	2. Sit down. (辺りの床を指しながら)
5.	少し前進してくれますか	Move closer.	2. Closer. (手招きしながら)
6.	少し詰めて (移動して)	Move over.	2. Move. (詰めてほしい方向に手を動かしながら)
7.	本が見える?	Can you see the book?	2. Can you see? OK? (絵本を見せながら。OK?の部分で頷いてみせる)
8.	今日は何を読むのかな?	What are we going to read today?	2. What story? (絵本を掲げつつ、子どもを見渡して)
9.	前にこの本を読んだことがある人?	Do you know this story?	4. You know this? Yes? No? (Yesと言いながら頷き、Noと言いながら首を振る)
10.	これ、知ってる人?	Know this? Anyone?	4. (Anyone?と言いながら手を挙げる)
11.	よく聞いてください	Are you listening?	2. Listen. (自分の耳を指差しながら)
12.	静かにしてくれますか?	Can you be quiet, please? / Don't talk.	2. Be quiet. (唇に人差し指を当てながら)
13.	お行儀よくしてね	Please behave yourself.	3. 状況に応じて、Be quiet. (唇に人差し指を当てながら) または Sit up. (背筋を伸ばして座る真似をしながら)
読み聞かせ中のコメント・問いかけ			
14.	この絵を見てください	Look at this picture.	2. Look. (絵を指差しながら)
15.	犬は何色ですか	What color is the dog?	4. What color? Black? White? ... (犬を指差しながら選択肢を提示)
16.	この箱に何が入っているかな?	What's in this box?	4. What's inside? A book? A pencil? ... (箱を指差しながら、文脈的にありうる選択肢を提示)
17.	なんだと思う?	Guess what?	4. What? A book? A pencil? ... (子どもを見渡しながら、文脈的にありうる選択肢を提示)
18.	これが何かわかる人?	What is this? Anyone?	4. (Anyone?と言いながら手を挙げる)
19.	この絵の中に何が見える?	What do you see in this picture?	4. What is this? (絵の中にあるものを1つ1つ指差し聞いていく)
20.	この単語を覚えていますか?	Do you remember this word?	3. "Dog." Do you remember? (具体的単語を挙げてから再確認)
21.	Elephantってどういう意味?	What does "elephant" mean?	4. "Elephant" is... (子どもを見渡しながら、続きを言うよう促す)

22.	このことばはどう発音しますか？	Can you read this word?	2. Read. (単語を指差しながら)
23.	「ゾウ」は英語で何？	What's "zou" in English?	4. "Zou" is... (子どもを見渡ししながら、続きを言うよう促す)
24.	新しい単語を覚えましょう	Let's learn new words.	2. Now, new words.
25.	「モンキー」はどう綴るの？	How do you spell "monkey"?	4. "Monkey." M, o... (最初の方だけ言って、続きを言うよう促す)
26.	私のあとについて言ってみて	Repeat after me.	2. Repeat.
27.	一緒に言いましょう	Let's say it together.	2. Say together.
28.	大文字のBを指してくれますか？	Where is capital B?	4. Is this B? No? (わざと違う文字を指し、首を振ってみせる)
29.	クリスマスまで、あと何日？	When's Christmas?	4. Christmas is December... (子どもを見渡ししながら、続きを言うよう促す)
30.	1週間のうちで、何曜日が一番好き？	What day of the week do you like best?	4. Do you like Monday? Tuesday?
31.	パイナップルが好きな人、手を挙げて	Who likes pineapples? Raise your hand.	4. Do you like pineapples? Yes? No? (Yesと言いながら頷き、Noと言いながら首を振る)
32.	ネコは好き？	Do you like cats?	4. Do you like cats? Yes? No? (Yesと言いながら頷き、Noと言いながら首を振る)
33.	どんな動物が好き？	What animals do you like?	4. What animals do you like? Elephants? Lions? ... (子どもを見渡ししながら、文脈的にありうる選択肢を提示)
34.	これ、知ってる？	Do you know this?	4. Do you know this? Yes? No? (Yesと言いながら頷き、Noと言いながら首を振る)
35.	次は何が起こるかな？	What happens next?	4. What happens? Does he go to school? Does he go home? ... (絵本の文脈的にありうる選択肢を挙げる)
36.	サオリちゃんは想像力があるね	I like Saori's ideas!	2. Saori, good idea! (親指を立てる)
37.	そう考えているのね？	Is that what you're thinking?	2. OK.
38.	青いバッグを見つけてね	Find a blue bag.	3. Blue bag. Where? (絵本のあちこちを指でたどりながら)
39.	羊を数えましょう。1, 2, 3...	Let's count the sheep. One, two, three...	3. Sheep. (羊の一匹を指差しながら) One, two, three... (順に指を移動させていく)
40.	これできる？	Can you do this?	3. (デモンストレーションしてから) Do it!
41.	私と同じようにしてみてください	Can you follow me?	3. (デモンストレーションしてから) Do it!

42.	私とそっくりにやっつて	Can you do exactly like me? Copy what I do, okay?	3. (デモンストレーションしてみ せてから) Do it!
43.	おサルさんみたいに動けるか な?	Now, you're a monkey!	3. (サルの真似をデモンストレー ションしてみせてから) Your turn!
44.	30秒でやっつてね	You have thirty seconds.	3. Start... Thirty seconds...Stop.
45.	急ぐ必要はありませんよ	There's no need to rush.	2. Relax.
46.	もう一度、やってみますか?	Do you want to try it again?	2. Again?
47.	先生の説明、わかるかな?	Do you understand?	2. OK?
48.	答えが合っているか見てみよう	Are you sure? Let's check.	2. Let's see. (人差し指を立てて)
49.	面白いね!	How interesting!	2. Interesting!
50.	おかしいね!	Funny story!	2. Funny!
51.	それは危険ですね!	That can be dangerous!	2. Dangerous!
52.	ケガをしたら大変!	He will get hurt! Oh, no!	2. (目を覆う動作)
53.	私、とても怖い!	I'm so scared!	3. Ohhh... (震えてみせる)
読み聞かせを終える			
54.	このお話は、これでおしまい	This is the end of the story.	2. The end.
55.	絵本、楽しかった?	Did you enjoy the story?	2. Do you like it?
56.	まったく馬鹿げた話ね!	That's a crazy story!	2. Crazy!
57.	でも本当の話よ	But it's true!	2. Real story.
58.	馬は何色だった?	What color was the horse?	4. (馬のページを開いて、馬を指 差しながら) What color? Black? White?
59.	馬は何頭いた?	How many horses were there?	4. (馬のページを開いて、馬を指 差しながら) How many? One, two...
60.	動物園にいたのは誰?	Who were the people in the zoo?	4. We saw Lisa, Ron... (子どもを 見渡ししながら、続きを言うよう促 す)
61.	ロンはなんて言った?	What did Ron say?	4. (当該ページを開いて、Ronを 指差しながら) Ron said... (子ど もを見渡ししながら、続きを言うよ う促す)
62.	もう一度、読んであげようか?	Read one more time?	2. Again? (絵本を開いて見せな がら)
63.	これを元の場所に戻してくれ る?	Can you put this back?	3. Put this in there. (片付ける場 所を指差しながら)

4. おわりに

ここまで、早川 (2022) で提案した、絵本読み聞かせに特化した教室英語表現集に関し、その内容をより実践的に使いやすくするための検討と改善を行なった。具体的には、できあがった表現集を実際に学生に使ってもらい「絵本読み聞かせ」の模擬活動を行い、平易と思われた表現でも子どもに通じない場合があることを示した。次に、通じなかった

場合の「言い換え」表現を、CDSの観点から提案した。今後必要なのは、教師にとっての表現の覚えやすさや、実際にそれらの表現を使ってスムーズに授業ができるか、といった、教師の側からの使い勝手を確認し、その上で更なる改善をすることだろう。また、この表現集を作成した動機はそもそも、市販の教室英語表現集では、(絵本読み聞かせという)特定の活動に用いる表現がさまざまな見出し下に散らばっているため、1つの活動に特化した表現集を作りたいというものであった。その結果、逆にそれ以外の活動には役に立たない表現集となってしまったため、今後、「絵本読み聞かせ」以外の活動への表現集の拡充が必要となってくるだろう。

参考文献

- Ferguson, C.A. "Baby Talk in Six Languages." In *American Anthropologist*. Vol. 66, Issue6, Part 2. 1964年 pp. 103-114
- Gardner, B. and Gardner, F. 著、松川禮子 監修、平松貴美子 日本語版翻訳・執筆『小学校ではじめて英語を教える先生のための 教室英語ガイド』Oxford University Press. 2005年
- Ward, S. *Baby Talk*. London: Arrow Books. 2004年
- 伊藤克敏「言語習得論—母語習得過程に見る英語指導への示唆—」『子どもに英語を教えるための基礎知識1』アルク 2018年 pp. 67-79
- 岩立志津夫、小椋たみ子 編著『やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ よくわかる言語発達 [改訂新版]』ミネルヴァ書房 2017年
- 大城賢 編著『平成29年版 小学校 新学習指導要領ポイント総整理 外国語』東洋館 2017年
- 小松幸子、西垣知佳子「インタラクシオンを促す英語絵本の読み聞かせとその効果」『小学校英語教育学会紀要』(8) 2007年 pp. 53-60
- 早川知江「英語絵本読み聞かせに活用できる英語表現集の開発：小学校外国語教育における読み聞かせ技術の向上を目指して」『Proceedings of JASFL』Vol. 15 日本機能言語学会 2021年 pp. 267-288
- 早川知江「英語絵本読み聞かせのための教室英語表現集の提案：英語が苦手な教員が小学校「外国語活動」を英語で行うために」『名古屋芸術大学研究紀要』第43巻 2022年 pp. 267-288
- 文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）』2017年
- 文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語活動・外国語編』2017年
- 吉田博彦「小学校英語教育の理念」『小学校英語指導者資格取得研修講座 講義テキスト』アルク 2018年 pp. 59-115
- 萬谷隆一「小学校英語活動での絵本読み聞かせにおける教師の相互交渉スキルに関する事例研究」北海道教育大学紀要 教育科学編 60(1) 2009年 pp. 69-80